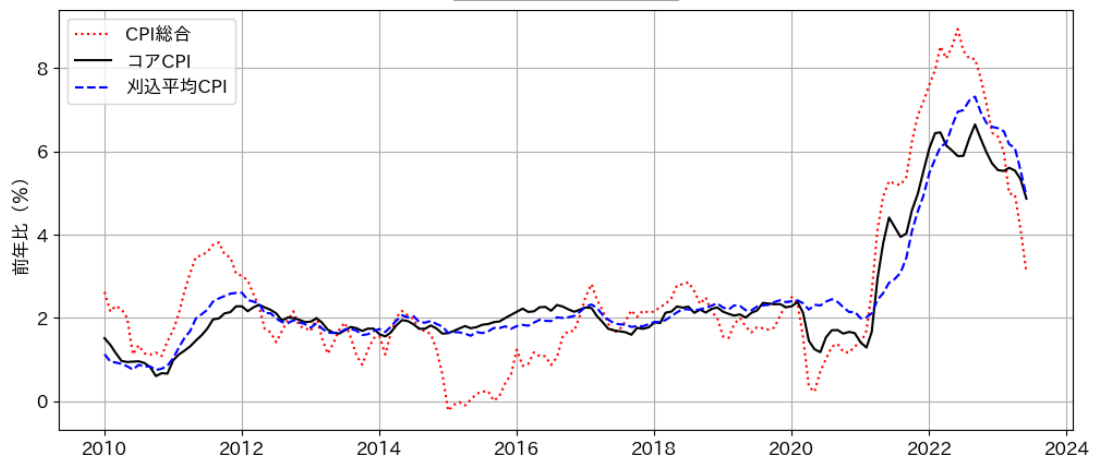


(米国)インフレ率の鈍化が継続

6月の消費者物価指数(CPI)を確認すると、総合は前年比3.0%(前月比は0.2%)、食料とエネルギーを除くコアは同4.8%(同0.2%)となり、鈍化傾向が確認できる。なお、住宅費の伸びは前月比0.4%、前年比では7.8%と高止まりしている。

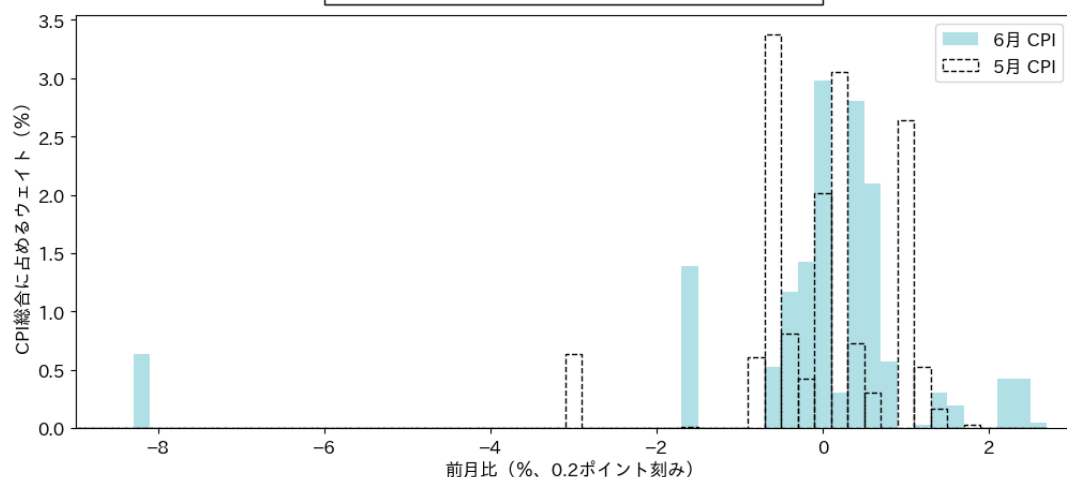
消費者物価指数の推移



(出典) 米労働統計局、FRED

サービスセクターのインフレ率を考えるうえで注目される「住宅を除くコア・サービス」に該当する各項目について、前月比でのインフレ率の分布を確認すると、6月は5月から若干インフレ率が抑制された印象となった。

住宅を除くコアサービスCPIのヒストグラム (6月)



(出典) 米労働統計局 (注) Indent Level = 5.

全体としてみると、6月のCPIからはインフレ率鈍化が確認できるが、FRBが目標とする(PCEデフレーターで測った)前年比2%と比べると依然として高いため、金融引き締めを継続する必要性は変わらないだろう。